

2019年度 第52卷 第1号

「アカデミズムに裏打ちされた実学教育」を通じて
チャレンジ精神と高い倫理性を持つ有為の人材を育成

考へ抜く実学。

河村宣行さん

就任二年目を迎えて 人との出会いと私が学んだもの

東京経済大学学長

岡本英男



一 はじめに

「就任二年目を迎えて」という題名で、一年間を振り返り、成果などを書いて欲しいという依頼を受けて、何を書いたらいいものかと随分と思索した。

「アカデミズムに裏打ちされた実学教育」を実践し、または「深い教養に裏打ちされた実学」を学生たちが学ぶうえで不可欠だと考えて実行した、全学共通教育センター教授会の設置について書いてみたいとも考えた。しかし、この改革は自分一人の成果というより、多くの教職員の協力の末できたものであり、別の機会に述べるのがふさわしいと思った。

そうこうするうちに、学長に就任してから自分の生活の一番の変化は、多くの人に出会い、話をするようになったことだと気づいた。他学部の教員や職員、理事会のメンバー、体育会や文化系サークルの学生代表、体育会OB、さまざまな分野の卒業生、校友会の役員、大倉記念学芸振興会の企画に登壇される研究者や芸術家、国分寺近隣の企業や商工会の方々、父母の会の役員、高校の先生方、メディア関係の人々。数えればキリがないほど実に多くの人々と出会った。

そのような出会いの中で強いインパクトを受け、その後立ち止まって考えたり、さらに関連する本を探し

出し、もっと調べてみたくなるようなものもある。

昨秋のホームカミングデーでの天野孝子さんと大久保まさ子さん（ともに、昭和五十一年卒業）との出会いもそうであった。私がお二人の話の中で興味をもったのは、お二人の出会いのきっかけとなった珠算研究会の活動、そこでの学生生活の様子だった。それこそ珠算研究会は、お二人の学生生活の拠り所であり、大勢で八王子の盲学校に算盤を教えに行ったり、夏合宿では先輩の世話で地方の公民館（石川県の七尾、青森県の三戸、五戸など）で地域の子どもたちに算盤を教えたりしたそうである。今でいうボランティア活動と一体となって皆で切磋琢磨しながら珠算技能の向上を図る、和気藹々とした学生たちの喜びあふれる部活の様子が私の目にはつきりと浮かんできた。

私はその後、珠算研究会を指導されていた川村先生とはどのような先生であったのだろうかと思いつつと気になっていった。そこで、川村貫治『珠算道七十年』（牧書店、一九六七年）を古書店で購入し、読んでみた。

読んでみると、川村先生は「補数計算から四つ玉算盤への案出、さらに珠算技術の上に新たに従来の商業算術をも加味統合したいわゆる〈近代珠算〉の樹立」を果たすなど「そろばんの神様」とあがめられていた先生であったことがわかった。さらに、同書に収められ

ている本学元教授大竹勝先生（著名な英文学者・翻訳家で、「東経大の研究者は〈国分寺学派〉をつくる意気込みで学問に邁進せよ」と常に述べていらした先生）の文章から、川村先生が日本全国にいる弟子から慕われる大変優れた教育者だったことも理解できた。

このように一つの出会いから、さらに次の出会い（たとえば、それが書物の中であろうとも）が生まれ、その過程で私は何かを学んできたような気がする。

本稿では、この後、二つの印象に残る出会いを述べ、このような出会いのなかで私が何を学んだかを書き留めておきたい。

二 色川大吉先生との出会い

私が学長に就任してまもなく、本学卒業生の新井勝紘さんから『五口市憲法』（岩波新書、二〇一八年）が送られてきた。私はこの新井さんの本を何度も読み返し、一九六八年当時の色川ゼミの活動の様子を『東京経済大学報』（二〇一八年度第五一卷第一号）に紹介し、五口市憲法発見前後の色川ゼミの学生たちの活躍を「東経大教育の原点」とであると述べた。

私はこの『大学報』で色川ゼミと色川先生について書く準備として、さらに書いた後も、『北村透谷』（東京大学出版会、一九九四年）をはじめ、色川先生の著書（三、四冊、江井秀雄『自由民権に輝いた青春』（草の根出版会、二〇〇二年）、そして武相民権運動百年記念実行委員会編『続憲法を考える―五口市憲法百年と戦後憲法―』（一九八三年））を読んだ。そのようないくつかの著書のなかで、私が心の底から共感し理解できたと思ったのは色川大吉『若者が主役だったころ―わが六〇年代』（岩波書店、二〇〇八年）だった。そこには、本学の学生たちをはじめ一九六〇年代の若

者の姿が生きて描かれており、研究室にこもり本の執筆に集中しようとしても筆が進まず焦っている色川先生ご自身の様子などもストリートに描かれている。この本を読んで自分は以前よりもずっと色川先生を理解できるようになったと思った。また、当時東経大の副手を務めていた江井さんの著書も新井さんの著書と同様に大変すばらしく、この本によって五日市憲法の起草者千葉卓三郎の全体像が理解できたような気がした。

その後しばらくしてから、『大学報』に私が書いた『アカデミズムに裏打ちされた実学教育』を実践する大学へ』を読まれた色川先生から手紙を何通かいただいた。自分たちが生きた時代、そして自分たちがとった行動を深く理解してくれてうれしい、ひいては一度会って話をしたいという主旨のものであった。

私も一度色川先生にお会いし、いろいろな質問をしてみたいと思っていたので、昨年一〇月に八ヶ岳の麓にある色川先生宅を訪問した。先生が生きた時代のこと、先生の学問のこと、そして先生の在職当時の東経大の様子、色川ゼミの活動など話しているうち、二時間半はあっという間に過ぎて行った。

その話のなかで私は、色川ゼミは五日市憲法の発見をはじめすばらしい成果をあげたが、なぜそのような成果を上げることができたのか、その理由を聞かせて欲しいと質問した。その答えは、「自分は江井秀雄、新井勝紘をはじめ当時のゼミ生を歴史学の初歩の初歩から教え込み、徹底して鍛え抜いた。しかし、ただ厳しく鍛えるだけでなく、愛情をもって鍛えた」というものであった。この言葉は、私自身不十分ながらも学生を指導するにあたって常に心がけてきたことであり、学長就任にあたって、「就職の東経大」という社会的評価をいっそう強化するためにも、アカデミズムの王

道である学問を通じて「学生を鍛える」と約束したことでもある。私は先生の言葉に意を強くし、満ち足りた気分で見事な紅葉に包まれた色川先生宅を後にした。

三 「本学の恩人」 山田雄三教授との出会い

今年の入学式の学長式辞で私は新入生に対して、花房正義さんと山城章先生、京セラの創業者稲盛和夫さんと内野正夫先生、そして吉本隆明さんと遠山啓先生という三組の学生と教師の出会いを例にとり、皆さんも本学で「生涯の師」となるような先生を見つけてくださいと呼び掛けた。

その数日後キャンパスで、入学式に参列し私の式辞を聞かれた経営学部のみ山高生先生から話しかけられた。私が話した三組の出会いについて言及され、城山三郎が『花失せては面白からず——山田教授の生き方・考え方』（角川書店、一九九六年）という著書のなかで城山三郎（本名杉浦英一）と恩師山田雄三教授の關係について書いており、ぜひ一読を勧められた。

山田雄三という名前は以前から『ベヴァリッジ報告』の監訳者、ミューダールの『経済学説と政治的要素』の訳者としてなじみがあったが、学長就任が決定してから真剣に読んだ『東京経済大学八十年史』に記載されている次の出来事によって、その名前は私にとって決定的に重要なものとなっていった。

一九五二年、教授会に諮ることもなく突然行われた理事会による渡辺輝雄教授（後の本学学長）と松本金次郎、玉城肇（後の愛知大学学長）両非常勤講師の解職は、本学に大きな対立と混乱をもたらした。この三教員の提訴によって事件は法廷の場にもちだされ、さらに学術会議にまで波紋が広がることになった。解職

に憤激した学生たちも抗議行動に乗り出し、集会や学内デモ、さらにストライキからハンストまで決行されることになった。このような深刻な事態に対して、教授会も理事会も自らの手で打開する力をもたず、結局解決は本学卒業生である山田雄三兼任教授（一橋大学教授）の調停に委ねられることになった。山田教授による三教員の解職を取消すという内容の調停案に理事会、教授会など関係者が同意して、本事件は一段落することになった。

『八十年史』はこの三教員解職事件について、「この事件は、学園に深い傷跡を残したが、解決にあたって学問思想の自由と教授会の審議権、人事権を尊重するという申し合わせ事項が確認されたことの意義はきわめて大きかった」という総括を下している。私もまったく同意見である。私は入学式の学長式辞等で、「本学は一九四九年の大学昇格以降、他のどの大学よりも『大学らしい大学』となることを目標に今日までやってきた」と繰り返し述べてきた。「大学らしい大学」の内容を一言で述べると、自由な学問研究を支えるにして質の高い教育を行うことであり、この理念を透明性の高い大学の民主的運営によってしっかりと支えることであるが、それは一朝一夕に確立できるものではなかった。三教員解職問題に代表される苦難に満ちた歴史があったのであり、山田教授による調停は、以後の本学の方向性を決定づける重要な決定であり、そういう意味で山田教授は本学にとって恩人というべき人である。

その山田教授の履歴を見ると、以下のようになっている。

明治三五年に甲府で生まれ、中学は京城の善隣商業大正八年（一六歳）に善隣商業の姉妹校である東京の大倉商業に転校。その二年後に東京商大の予科に入学

し、本科では福田徳三のゼミに参加（福田教授の渡欧中は大塚金之助のゼミに参加）。卒業論文のテーマは「カール・メンガー研究」。昭和二年に卒業後、母校東京商大に残り、補手を皮切りに以後、助手、助教授へと昇格し、そして昭和一六年（三八歳）に教授に就任。担当講座は経済学史と統制経済論。昭和四〇年に一橋大学を退官後、新設の社会保障研究所所長に就任。ちなみに、山田教授は、森ビルおよび森トラスト・ホールディングスの創業者であり、大倉高等商業を卒業された本学OBの森泰吉郎氏とは大倉商業で同期であり、大学時代そして大学卒業後も経済問題を論じあう生涯の友人であった。

さて、肝心の山田教授と城山三郎の出会い、そしてその子弟関係に話を戻す。

『花失せては面白からず』の最初のほうに、山田教授が学生城山三郎に宛てた長い手紙が出てくる。その内容は、ウォーム・ハートとクール・ヘッドといわれる経済学にウォームなところが感じられなくなり、せっかく入れていただいた山田ゼミを「やめさせていただきます」という学生城山の手紙に、山田教授が答えたものである。ここで教授は、「君は自由に君自身の道を選んで下さい。科学のみが人間探求の唯一の道ではありません」と言いながらも、「実証的な社会科学の仕事は決して華々しくはないものの、仕事は実は現代人の人間型のうちに血となる肉となりつつある形成要素」であり、人間探求こそ社会科学者の課題であることを丁寧に説明している。

手紙をもらった城山は「胸の中があたたく濡れて行く思いの中」で何度も繰り返し読み、「あの無表情で口数の少ない教授が、こんなにまで一人の学生のことを思ってたっているのか」と居たたまれなくなり、翌日教授を訪問して詫び、山田ゼミでの勉強を続ける

ことになった。

以後、城山にとって山田教授は生涯の師であり、「その存在を意識すると、体の中を涼しい風が走り抜ける」、そのような存在であった。実際、城山が小説家になった後も交流は続き、山田教授夫人が亡くなり、さらに友人の森泰吉郎氏が亡くなった後には、毎年の正月元日にパレスホテルで二人だけの「二人ゼミナール」で午後を過ごす仲になった。

これほどまで城山が山田教授に惹かれたのはなぜか。私が思うに、それは「政治性とか社交性とかとは、およそ無縁で、学究中の学究、いい意味でのいちばん学者らしい学者」の山田教授の中に、城山のような一学生の迷い、疑問、問題提起に対しても全身全霊で答えようとする真摯な人間性を発見しえたからであろう。手紙の内容は「論理の実証主義」の立場から社会科学とは何かを論じたものであり、おそらく学生城山がすぐに理解できるようなものではなかった。しかし、現代の課題に迂回的であれ真摯に取り組もうとする教授の情熱、そしてそれを若い学生にも伝えようとする教育者の良心のようなものを学生城山は直感的に感得したのであろう。

四 むすびに代えて

私は今年の入学式の学長式辞で「何かを学びたいという学生の意欲、若い学生にこれだけは伝えなければという教師の使命感。この二つの魂の出会いこそ、大学教育の原点なのです」と述べた。本学がいつまでもこのような「大学教育の原点」を忘れないならば、今後もなお存在感のある「大学らしい大学」としてさらに発展し続けることができると私は信じている。

私は昨秋八ヶ岳の麓で実際に色川先生にお会いし、

また城山三郎の本を通じてではあるが「本学の恩人」とも言える山田雄三教授とも親しく会話し、「大学教育の原点」とは何かを改めて確認することができた。ここでさらに一言付け加えておくと、城山著で理想の大学教師像としての山田教授を知りえたのを絶好の機会として、山田教授の私家版第二論集『続寒蟬―経済思想としての福祉国家を考える―』を読み、福祉国家の研究者同士としても山田教授と交流・対話しているところである。近いうちに、代表作と思われる『計画の経済理論』（岩波書店、一九四二年）、『資本主義経済計画と社会主義経済計画』（有斐閣、一九四八年）を読み、山田雄三理論の歴史的意義を探索してみたいと思っている。

「はじめに」で書いたように、昨年四月に学長に就任してから一年以上経過したが、実に多くの人に出会った。卒業式と入学式で言及した花房正義さんとの二時間半におよぶ会話が印象的で、そこから私は多くを学んだ。また、紙数の関係上、ここで詳しく触れることはできなかったが、学生相談室五〇周年記念号の『学生相談室報告書第39号』に掲載する学長あいさつを準備する過程で、元職員高橋星湖さんの相談室充実のための活躍とそれを支えた東経大職員としての高い志を知ることができた（関心をもたれた方は巻頭にある拙稿「学生相談室五〇周年記念号に寄せて」を読んでいただきたい）。

今後でもできるだけ多くの人と出会い（すでに亡くなった方とは書物の中で出会い）、そこから何かを学び取り、「大学らしい大学」として本学をさらに発展させるための指針としたい。皆様のご支援とご協力を賜りたい。

折元奨学金と 折元定夫さんの思い出

東京経済大学学長 岡本英男

私は一月二九日に南原真経済学部長・

国際交流委員長と一緒に、一二〇周年記念留学支援折元奨学金の採用第一期生となる福田誉久さん（当時経済学部二年）と学長室で会い、留学許可書を交付し、留学にあたっての抱負などについてを聞きました。福田さんは二〇一九年九月より本学協定校であるアメリカのペース大学に留学する予定で、現在その準備のため、英語の勉強に必死に取り組んでいるという話でした。

折元奨学金は、本学の建学の理念である進取の精神に基づき、国外に留学し、真摯に学業に精励する学生のうち特に優秀な学生に対し、その勉学を奨励するために留学先での生活費の一部を補助することを目的とした奨学金です。

この奨学金の生みの親である折元定夫さんは本学経済学部を昭和三年に卒業された方ですが、残念なことに二〇一八年一月二日に逝去されました。

ここに、折元さんにお会いしたときの印象、その時の会話の内容の一端を紹介し、読者の皆様に折元さんが本学に対する高額の寄付、そして折元奨学金に込め

た思いをお伝えしたい。

私は学長就任以来、「一二〇周年記念留学支援折元奨学金」として本学に多額の寄付をしていただいている折元さんに一度ご挨拶に伺いたいと思うていました。しかし、折元さんの体調などの関係で、なかなかお会いすることができず、本学評議員である榎原啓子さんの仲介でやっとお会いできたのは昨年の一〇月五日でした。

お会いしたときの第一印象は、高齢にもかかわらず、長身で姿勢も正しく、赤いネクタイをきちんと締め、深い紺色のダブルのブレザーを着こなした姿はとても八五歳とは見えないほど若々しい姿でした。話が進むにつれて舌も滑らかになられ、話の内容も魅力的で、二時間半の時間もあっという間に過ぎていきました。

その二日後の一〇月七日に、私はお礼とお話の感想、そして「折元さんの手術後の体調を十分に配慮することができず、会食にお誘いしたこと」を詫げる内容の手紙を書きました。



ちょうどその手紙を投函してから一〇日後の一〇月一七日に、榎原さんから「折元さんが再び入院されることになった。そして、入院の前に銀行に来てもらい、折元奨学金への追加の寄付金として三〇〇〇万円を大学あてに振り込んで下さることになった」という電話がありました。私のそのときの気持ちは、追加の寄付をして下さった折元さんに感謝すると同時に、退院された時にまたお会いし、直接お礼を述べようという楽観的なものでした。したがって、その二週間後の一月二日に、折元さんが亡くなられたという知らせを受けたときは本当に衝撃を受けました。私が学長室で、そして会食の席で親しくお話してから一か月もしないうちににお亡くなりになるとはまったく想像すらしていなかったからです。

折元さんにお礼を述べようと思って

もはやそれは叶いません。そこで、私はその後機会あるごとに、感謝の気持ちを込めて、葵経営者クラブなど大学関係の集まりの場で、折元さんご自身のこと、そして折元奨学金について紹介してきました。ここで改めて、今もなお私の脳裏に強く残っている、折元さんご自身の言葉を記すことによって、折元さんの本学学生への思いをお伝えしたいと思います。

「自分の学生時代を振り返ると、恥ずかしいことにあまり勉強に打ち込むことができなかった。まだ戦後の余波が強く残る時代で、群馬から東京に出てきてアルバイトをしながら大学を卒業するのに精いっぱいだった。しかし、ゼミの仲間、先生には恵まれ、ゼミ同窓生との付き合いは卒業後も続き、指導教授の八幡先生には自分が事業を立ち上げる際に相談に乗ってもらった。自分は空調設備の事業の成功によって経済的には余裕ある生活ができるようになった。このたびその一部を大学に寄付させていただいたが、留学を目指す若い学生の皆さんにはこの折元奨学金を生活の足しにして色んなことに挑戦をし、若いときにしかない勉強に精一杯励んで欲しい」。

本学の学生の皆さん、とくに留学を志す皆さん、このような本学卒業生折元さんの思いを受け止め、折元奨学金にチャレンジして下さい。

多様な業界で活躍する東京経済大学の卒業生を訪ねる特別企画。
この春、株式会社不二家の代表取締役社長に就任した河村宣行さん。愛され続けるお菓子の会社に似合うほらかな笑顔で、学生時代の思い出を語ってくださいました。

株式会社不二家 代表取締役社長

河村宣行さん

(東京経済大学 経済学部卒業)

NOBUYUKI KAWAMURA 東京都出身。1967年、東京経済大学経済学部経済学科卒業。株式会社不二家に入社。執行役員菓子事業本部営業部長、執行役員人事総務部長、執行役員CSH推進部長、専務取締役菓子事業本部長兼菓子事業本部マーケティング本部長兼食品事業担当等を経て、2019年3月から現職。

バドミントン部で得た 勝敗より大事なもの

——1973年に、東京経済大学経済学部に入社されました。

私は多摩の羽村市で育ったせいとか、都心よりも国分寺くらいのがんばりした雰囲気の方が落ち着くんです。実際、あのこぢんまりとしたキャンパスは実に居心地が良かった。校舎はいまと違ってオンボロでしたけどね(笑)。当時の東経大は、経済学部と経営学部の2学部のみ。「経営ってよく分からないから経済にしておくか」というのが偽らざる志望動機です。そんな僕がいまでは経営を担っているわけですから、人生は分からないものです。

——大学では、体育会バドミントン部に入ったそうですね。

晴れて大学生になったんだし、教室と家の往復じゃもったいないな、という軽い気持ちで入部しました。当時のバドミントン部は決して強くはありませんでしたが、同級生にインターハイ出場経験のある選手がいたので「あいつに負けたくない!」と僕も必死で練習していました。レギュラー落ちして体育館を使えず、キャンパスの周りをぐるぐる走っていたのもいまでは良い思い出です。

私達の時代のバドミントン部は、体育会とはいえ和やかでのがんばりした雰囲気でした。試合にはなかなか勝てなかったけど、そんなことよりも先輩や仲間と一

緒に過ごす時間が楽しかった。他愛もない話ばかりしていたんですが、多様なバックグラウンドの仲間と過ごした日々は生涯の財産です。目上の人や後輩との接し方もこの頃に自然と身についたように思います。

「井の中の蛙」を実感し 休日返上で猛勉強

——就職先に不二家を選んだ理由を教えてください。

TVコマースシャルの影響が大きいですね。私が子どもの頃は、TBSで日曜夜7時半から「不二家の時間」という枠があつて「ポパイ」や「オバケのQ太郎」を放送していたんです。そのコマースシャルで映し出される不二家の数寄屋橋店がまぶしくてね、憧れだったんです。当時はキーキなんて、誕生日とクリスマスにしか食べられない特別なものでしたからね。就職を考える際に当時のことを思い出して、「あんな幸せな時間をつくる仕事がいいな」と。

就職活動はいまとは随分様子が違っていて、大学4年の10月に各社一斉に説明会、11月に一斉に筆記試験が行われるといった具合でした。就活のノウハウなんて知らなかった僕は、当時の銀座本社まで押しかけて、人事部の人に「試験前に内々定とかあるんですか!」と聞きに行ったことも。「そんなものはないよ、とにかく試験を受けなさい」と優しく諭さ



れて帰りました(笑)。

——現役の大学生に向けて、アドバイスはありますか。

学生時代の私は、試験前だけササッと勉強するタイプで、何かの研究に打ち込んだ、などと胸を張れるものは正直ありません。むしろ社会人になってからの方が、商品企画の勉強会に参加したり、必要な本を読みあさったりと、自ら学ぶようになりました。

人生で一番勉強したのは、忘れもしない40代半ば頃。きっかけは、ある取引先との交渉の場で出会ったKさんの存在です。込み入った交渉だったので、当時課長だった私は部署の命運をかけて臨んだわけですが、Kさんの理路整然とした交渉術にぐうの音も出ない。「世の中には大変な切れ者がいるんだな」と心底驚きました。案の定、彼はその後社長にまで上り詰めることになるのですが、恥ずかしながら、それまで順調に不二家でキャリアを重ねてきた私は、少なからず仕事ができる気でいたんです。その天狗になりかけていた鼻をバシッと折られた気分でした。

どうにか活路を見出さなくてはと模索しているとき、K先生のディベートの本に興味を持ち研究会へ入会。以来、月1回の研究会に参加するために、経済問題や時事問題などを勉強する日々が始まりました。肯定・否定のどちらの立場になるか当日まで分からないため、広範な知識の習得と思考は不可欠。通勤中も週末も時間を惜しんで勉強しました。この3年間の日々で果たしてKさんに近づけたのかは分かりませんが、自分の能力やキャリアをあらためて見つめ直す大切

共に汗を流した仲間が40年経ったいまも大切な存在です

な機会になりました。

最近の学生さんは、真面目に授業に出席し、試験勉強もきちっとやるそうですね。ただ、本来の意味で「学ぶ」というのは学生時代に限ったことではないんです。どんな道に進んでも、勉強し続けないう限りそこで成長は止まってしまう。広い視野と大らかな心と共に、「一生勉強」の態度を持ち続けてほしいと思います。

——もし、もう一度大学に通えるとしたら何をしたいですか。

そんな機会に恵まれたら、「マーケティング」を体系的に学んでみたいですね。僕は社会に出てから現場で身につけていたので、学問として学ぶということを経験してみたい。あとは「戦史」の研究です。例えば、戦国時代と近現代の戦争を比較検討すると一定の法則があるのではないか、とか、状況判断という点で企業経営に通ずるところがあるのではないかな等々。興味関心の赴くままにじっくり研究してみたいですね。

創業110周年に向けてさらなる飛躍と発展を

——社会人になってからも、大学時代の仲間とは交流があるそうですね。

20年ほど前のことですが、あるとき社員から、「イトーヨーカ堂のバイヤーが河村さんのことを知っているそうです

よ」と言われましてね。聞くと、東経大

のバドミントン部で同級生だったFくんだったんです。ちょうど同じ頃、10年来の知り合いだったロッテのYさんが、実はバドミントン部の4年上の先輩だったことも判明。以来、部の周年イベントと一緒に顔を出したり、年次の近い先輩達と年1回の旅行に出かけたりしています。

大学卒業後、仕事に追われて皆とは長らく疎遠だったのに、同じ業界で再会し、さらに新たな繋がりが生まれるなんて、人の縁というのは不思議だなと思いますね。それに、当時一緒に過ごした期間はほんの数年間なのに、ひとたび集まるとなんともいえない心地よい一体感があるんです。面白いものですね。

——今年3月、代表取締役社長に就任されました。組織を率いるにあたって大切にされていることはありますか。

「美点凝視」、つまり相手の良いところに注目し指摘する、ということですね。これは先ほどのディベートとも通じるところで、物事はどこから見るとその見え方が大きく変わるんですよ。肯定側と否定側、長所と短所。人も組織も、いい所もあれば悪い所もあるのですから、まずは長所を見つけて好きになろう、というのが私のモットーです。

これは、相手が企業でも部下でも子どもでも同じことです。

時に注意や叱責が必要な局面もあるでしょうが、「あなたはこんな長所があるんだから、こういう短所を直せばもっとよくなるよ」と伝えてあげた方が、相手は素直に受け取ってくれると思う。私自身、今後も実践していくつもりですし、社員一人ひとりにもそうあってほしいと折に触れて伝えていきます。

——不二家は来年、創業110周年を迎えられますね。

ご存じの通り、不二家はかつて不祥事により、会社の存続すら危ぶまれた時代がありました。そこから体制を一新して立て直し、100年を超える歴史を築くことができました。これからも「常により良い商品と最善のサービスを通じて、お客様ご家族に、おいしき、楽しき、満足を提供する」という経営理念のもと、新たな発展の時代を築き上げていくつもりです。

例えば、不二家の洋菓子店でご好評いただいている半生菓子や、量販店などでもっと気軽に買いたいだけという、体制を整えていきます。中国を主とした海外拠点もさらに広げていくつもりです。それから、来年はベコちゃんの誕生からちょうど70年。ありがたいことにこれまで多くの方々に愛されてきましたが、若い世代やお子様にもっと親しんでもらうために、ライセンスビジネスにも一層注力していきます。

不二家が創業110年を迎える2020年は、東京経済大学が創立120年だそうです。卒業生としてこちらも負けてはいられません(笑)。今後も果敢にチャレンジを続けていきたいと思えます。

2018年度

2019年3月卒業生

就職状況報告

川口 誠一

キャリアセンター長

2018年度の就職環境

2018年度当初、新卒者の就職動向を予測するための指標として広く活用されているリクルートワークス研究所調査は、次のように大卒求人倍率・資料、棒グラフ）を公表しました。「2019年3月卒業予定の大学生・大学院生対象の大卒求人倍率は1・88倍と、前年の1・78倍より0・10ポ

イント上昇。全国の民間企業の求人総数は、前年の75・5万人から81・4万人へと5・8万人増加した（対前年増減率は+7・7%）。一方、学生の民間企業就職希望者数は、前年の42・3万人とほぼ同水準の43・2万人であった（対前年増減率は+2・1%）。」

全体的に見れば7年連続での改善となったものの、例えば、従業員規模別に見ると、300人未満企業では9・

91倍と前年の6・45倍から+3・46ポイントと大きく上昇したのに対し、5000人以上企業では0・37倍と前年の0・39倍から0・02ポイント低下し、従業員規模間の倍率差は拡大するなど、必ずしも楽観視はできない状況との印象を受けました。

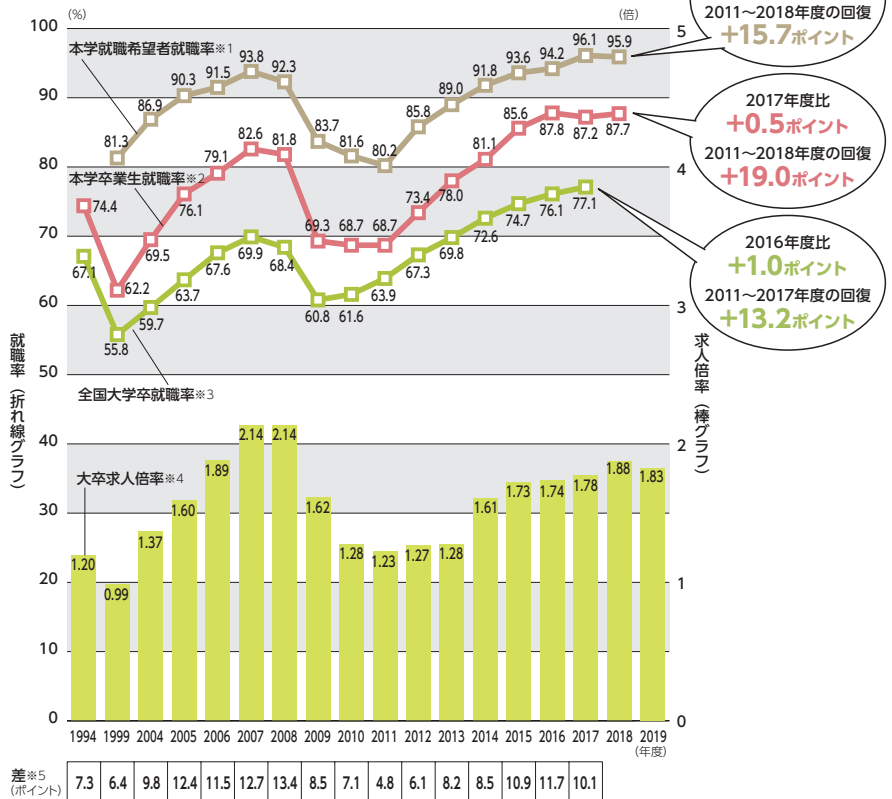
2018年度のキャリア支援

- この様な状況を受け2018年度は、
- 以下の様な取り組みを実施いたしました。
1. インターンシップ支援
 2. 業界別卒業生団体企画（葵マスコミ会、葵流通会、葵金融会、大倉公認会計士会、税理士葵会等）各種就職支援行事（758コマ開催）
 3. 1～3年生全員面談実施（ゼミ形式）
 4. 4年生支援サイクルの徹底
フォローガイダンスと合同企業説明会を繰り返し実施するとともに、電話かけによりそれらへの参加を促す。
 5. 企業との関係強化（企業訪問、年間390社）
 6. 学生との関わり強化
学生との関わり件数
2万6295件（内訳…1～3年生全員面談3476件、個別相談9830件、ゼミ出張講座における関わり60件、電話かけ1万2929件）

2018年度（2019年3月卒業生）の就職状況

こうした支援の結果、2019年3月卒業生の卒業生就職率（卒業生全員を分母とした就職率）は87・7%で、前年度（87・2%）比0・5ポイントの上昇となりました。内訳は「正規社員」就職率87・1%、「非正規社員」

【資料】大卒求人倍率・全国大学卒就職率等推移



※1 本学就職希望者就職率：該当年度3月卒業生、3月31日現在の数値、就職決定者数/（進路判明者数－就職を希望しない者の数）
 ※2 本学卒業生就職率：該当年度3月卒業生、3月31日現在の数値、就職決定者数/卒業生数
 ※3 全国大学卒就職率：文部科学省 学校基本統計（学校基本調査報告書）、該当年度の就職者総数/全国の大学学部卒業生数
 ※4 大卒求人倍率：リクルートワークス研究所調査、求人総数/民間企業就職希望者数
 ※5 本学卒業生就職率－全国大学卒就職率

就職率0・6%です。

また、就職希望者就職率（就職希望者のみを分母とした就職率、就職希望者就職率＝就職決定者数／（進路判明者数－就職を希望しない者の数））は95・9%で、前年度（96・1%）より0・2ポイントのマイナスとなりました。この理由は進路報告の判明率が0・8ポイント上昇したことにより分母が増加したため、実質的には前年度並みの状態を維持することが出来たと理解しております。

2019年度（現4年生）の就職環境

2019年4月24日、リクルートワークス研究所調査によると、2020年3月卒業予定の大学生・大学院生対象の大卒求人倍率は1・83倍で、前年度（1・88倍）より0・05ポイント低下しました。高水準を維持し、リーマン・ショックで大幅に低下した2010年卒以降では2番目の高さとなりました。しかし、8年ぶりに低下した理由は、求人総数が81・4万人から80・5万人へと0・9万人減少したこと、民間企業就職希望者数が43・2万人から44・0万人へと0・8万人増加したことにより、高水準維持に楽観できる状況ではありません。キャリアセンターでは、引き続き緊張感を持って支援に臨んでまいります。

2019年度（現4年生）の採用スケジュール

「2019年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」では、現4年生の採用選考スケジュールについて、前年と同様、「企業の広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降、正式な内定日は10月1日以降」と定めました。

しかし、中には3年生の秋ごろから2月までに「ワンデイトーンシップ」等の名称で会社説明会に準じた内容を行い、これに参加した学生を対象に早期選考を行う企業がありました。

インターンシップは本来「就業体験」と位置づけられ、企業が採用活動の一環として行うことは出来ないこととなつていますが、近年この位置付けの有名無実化が目立ちます。

また、企業によっては広報活動開始時期である3月に採用選考活動をスタートし、一部の学生からは早々に「内定を得た」との報告が寄せられるなど、前年度よりもさらに早い動きが見られました。現状では、6月1日を待たずに、既に多くの企業で採用選考がスタートしています。キャリアセンターでは、注意喚起に努めると共に、4年生対象の就職支援行事や個別相談を通して、就職活動中の学生を継続的に支援してまいります。

2020年度（現3年生）の採用スケジュール

2018年10月9日に経団連が、2020年度（2021年3月）以降の卒業・修了予定者に関する就職・採用活動日程等を規定する「採用選考に関する指針」の策定を行わないことを決定しました。

政府は、事態打開のため、「就職・採用活動日程に関する関係省庁連絡会議」を設置し、2020年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程について、現行ルールと同じとするとりまとめを行いました（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降。採用活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降）。

しかし、「その他の論点を含む要請内容の詳細については、経済界や大学側とも対話しながら、関係省庁において引き続き検討を行う」との説明があり、今後も変動の可能性が示唆されています。ここでの「要請内容の詳細」とは「学事日程への配慮、留学経験者に対する配慮、公平・公正で透明な採用の徹底、広報活動・採用選考活動の開始前にインターンシップと称して当該活動を行わないこと、採用選考にあつての成績証明等の一層の活用、クビルビズ等への配慮、といった事項」を指していますが、特に先述した「ワンデイトーンシップ」と呼ばれる

形態で会社説明会に準じた内容を実施する実態を何処まで抑制できるかは不透明で、企業の動向には注意が必要となります。

2021年度（現2年生）以降の採用活動について

2019年4月19日の日本経済新聞では「経団連、通年採用に移行、新卒一括を見直し」との見出しで、2021年度（現2年生）以降の採用活動について、次のように伝えています。「春の一括採用に偏った慣行を見直す。能力を重視した採用の動きが強まるなか、大学を卒業した後での選考など複数の方式による採用へ移る。自由な採用活動が広がる契機となり、横並びの一括採用と年功序列を象徴とする日本型の雇用慣行が大きく変わりそうだ。」「2022年春入社から順次、通年採用を広げていく方針」。この報道だけでは具体的な内容は不明ですが、スケジュール変更とは違う影響が予測されます。キャリアセンターでは年間約400社に実施している企業訪問や、学内合同企業説明会招致企業から動向を探ると共に、学生に対しては就職ガイドンや全員面談等を通して、保護者の皆様には父母の会ニュース、父母の会支部懇談会などで情報の提供に努め、本学学生がスムーズに就職活動を行えるよう支援に努めてまいります。

平成30年度収支決算

学校法人東京経済大学の2018年度（平成30年度）の事業報告と決算が5月23日開催の評議員会・理事会において承認され、確定いたしました。また、2019年度（平成31年度）の事業計画と予算がすでに3月28日開催の評議員会・理事会において決定しています。

2018年度決算書概要および2019年度予算書概要を掲載いたしますのでご覧下さい。なお、2018年度事業報告書および2019年度事業計画書は東京経済大学ホームページに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

資金収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,050,863,000	7,055,172,000	△ 4,309,000
手数料収入	307,561,000	366,120,248	△ 58,559,248
寄付金収入	287,235,000	121,509,054	165,725,946
補助金収入	464,633,000	501,580,366	△ 36,947,366
資産売却収入	805,517,000	806,013,083	△ 496,083
付随事業・収益事業収入	61,654,000	62,426,300	△ 772,300
受取利息・配当金収入	252,000,000	226,459,475	25,540,525
雑収入	101,819,000	143,143,697	△ 41,324,697
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,573,667,000	2,407,141,120	166,525,880
その他の収入	249,121,000	299,882,809	△ 50,761,809
資金収入調整勘定	△ 2,657,295,000	△ 2,700,779,024	43,484,024
前年度繰越支払資金	7,911,565,000	7,911,565,149	—
収入の部合計	17,408,340,000	17,200,234,277	208,105,723
支出の部			
人件費支出	4,069,869,000	4,093,874,377	△ 24,005,377
教育研究経費支出	2,240,898,000	2,180,486,634	60,411,366
管理経費支出	453,142,000	425,473,188	27,668,812
借入金等利息支出	11,944,000	11,944,335	△ 335
借入金等返済支出	462,490,000	462,490,000	0
施設関係支出	293,651,000	295,603,770	△ 1,952,770
設備関係支出	170,303,000	175,273,506	△ 4,970,506
資産運用支出	4,451,631,000	4,756,615,333	△ 304,984,333
その他の支出	433,984,000	450,330,138	△ 16,346,138
[予備費]	(10,000,000)	—	0
資金支出調整勘定	△ 46,418,000	△ 161,172,239	114,754,239
翌年度繰越支払資金	4,866,846,000	4,509,315,235	357,530,765
支出の部合計	17,408,340,000	17,200,234,277	208,105,723

活動区分資金収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科目		金額	科目		金額
教育活動による資金収支	収入		その他の活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	7,055,172,000		有価証券売却収入	806,013,083
	手数料収入	366,120,248		退職給与引当特定資産取崩収入	72,380,800
	特別寄付金収入	84,978,336		大倉学芸振興会引当特定資産取崩収入	3,952,517
	経常費等補助金収入	495,487,366		小計	882,346,400
	付随事業収入	62,426,300		受取利息・配当金収入	226,459,475
	雑収入	143,143,697		その他の活動資金収入計	1,108,805,875
	教育活動資金収入計	8,207,327,947		借入金等返済支出	462,490,000
	支出			有価証券購入支出	4,267,062,744
	人件費支出	4,093,874,377		第3号基本金引当特定資産繰入支出	101,558,282
施設整備等活動による資金収支	教育研究経費支出	2,180,486,634	支出	退職給与引当特定資産繰入支出	134,362,307
	管理経費支出	425,473,188		大倉学芸振興会引当特定資産繰入支出	3,632,000
	教育活動資金支出計	6,699,834,199		預り金支払支出	6,731,749
	差引	1,507,493,748		立替金支払支出	1,317,990
	調整勘定等	△ 351,146,035		小計	4,977,155,072
	教育活動資金収支差額	1,156,347,713		借入金等利息支出	11,944,335
	収入			その他の活動資金支出計	4,989,099,407
	施設設備寄付金収入	36,530,718		差引	△ 3,880,293,532
	施設設備補助金収入	6,093,000		調整勘定等	0
	施設整備等活動資金収入計	42,623,718		その他の活動資金収支差額	△ 3,880,293,532
施設整備等活動による資金収支	施設関係支出	295,603,770	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		
	設備関係支出	175,273,506	△ 3,402,249,914		
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	250,000,000	前年度繰越支払資金		
	施設整備等活動資金支出計	720,877,276	7,911,565,149		
	差引	△ 678,253,558	翌年度繰越支払資金		
	調整勘定等	△ 50,537	4,509,315,235		
施設整備等活動資金収支差額		△ 678,304,095			
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		478,043,618			

事業活動収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科目		予算	決算	差異	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	7,050,863,000	7,055,172,000	△ 4,309,000
		手数料	307,561,000	366,120,248	△ 58,559,248
		寄付金	37,235,000	84,998,336	△ 47,763,336
		経常費等補助金	458,540,000	495,487,366	△ 36,947,366
		付随事業収入	61,654,000	62,426,300	△ 772,300
		雑収入	101,819,000	143,143,697	△ 41,324,697
		教育活動収入計	8,017,672,000	8,207,347,947	△ 189,675,947
	事業活動支出の部	人件費	4,145,728,000	4,155,855,884	△ 10,127,884
		教育研究経費	3,036,050,000	2,975,638,189	60,411,811
		管理経費	470,564,000	442,915,135	27,648,865
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	7,652,342,000	7,574,409,208	77,932,792
教育活動収支差額		365,330,000	632,938,739	△ 267,608,739	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	252,000,000	226,459,475	25,540,525
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	252,000,000	226,459,475	25,540,525
	事業活動支出の部	借入金等利息	11,944,000	11,944,335	△ 335
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	11,944,000	11,944,335	△ 335
	教育活動外収支差額		240,056,000	214,515,140	25,540,860
経常収支差額		605,386,000	847,453,879	△ 242,067,879	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	258,093,000	47,360,789	210,732,211
		特別収入計	258,093,000	47,360,789	210,732,211
	事業活動支出の部	資産処分差額	2,000,000	868,187	1,131,813
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	2,000,000	868,187	1,131,813
	特別収支差額		256,093,000	46,492,602	209,600,398
[予備費]		(10,000,000)	—	0	
基本金組入前当年度収支差額		861,479,000	893,946,481	△ 32,467,481	
基本金組入額合計		△ 1,157,527,000	△ 1,165,784,803	8,257,803	
当年度収支差額		△ 296,048,000	△ 271,838,322	△ 24,209,678	
前年度繰越収支差額		△ 1,703,915,000	△ 1,703,914,502	△ 498	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 1,999,963,000	△ 1,975,752,824	△ 24,210,176	
(参考)					
事業活動収入計		8,527,765,000	8,481,168,211	46,596,789	
事業活動支出計		7,666,286,000	7,587,221,730	79,064,270	

貸借対照表

平成31年3月31日

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	38,400,301,725	34,863,860,134	3,536,441,591
（有形固定資産）	(19,884,253,145)	(20,222,080,487)	(△ 337,827,342)
（特定資産）	(8,426,440,665)	(8,013,221,393)	(413,219,272)
（その他の固定資産）	(10,089,607,915)	(6,628,558,254)	(3,461,049,661)
流動資産	4,572,406,351	8,153,298,860	△ 3,580,892,509
資産の部合計	42,972,708,076	43,017,158,994	△ 44,450,918
負債の部			
固定負債	3,240,329,364	3,592,190,057	△ 351,860,693
流動負債	3,238,955,788	3,825,492,494	△ 586,536,706
負債の部合計	6,479,285,152	7,417,682,551	△ 938,397,399
純資産の部			
基本金	38,469,175,748	37,303,390,945	1,165,784,803
第1号基本金	32,530,818,873	31,716,592,352	814,226,521
第2号基本金	680,000,000	430,000,000	250,000,000
第3号基本金	4,732,356,875	4,630,798,593	101,558,282
第4号基本金	526,000,000	526,000,000	0
繰越収支差額	△ 1,975,752,824	△ 1,703,914,502	△ 271,838,322
純資産の部合計	36,493,422,924	35,599,476,443	893,946,481
負債及び純資産の部合計	42,972,708,076	43,017,158,994	△ 44,450,918

平成31年度予算

資金収支予算書 平成31年4月1日から平成32年3月31日まで (単位：千円)

科目	31年度予算	30年度予算	増減 (△)
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,115,059	7,050,863	64,196
手数料収入	307,548	307,561	△ 13
寄付金収入	249,100	287,235	△ 38,135
補助金収入	535,696	464,633	71,063
資産売却収入	1,210,156	805,517	404,639
付随事業・収益事業収入	69,809	61,654	8,155
受取利息・配当金収入	252,000	252,000	0
雑収入	174,745	101,819	72,926
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,598,083	2,573,667	24,416
その他の収入	183,867	249,121	△ 65,254
資金収入調整勘定	△ 2,671,432	△ 2,657,295	△ 14,137
前年度繰越支払資金	4,866,846	7,911,565	—
収入の部合計	14,891,477	17,408,340	△ 2,516,863
支出の部			
人件費支出	4,311,472	4,059,869	251,603
教育研究経費支出	2,363,331	2,240,898	122,433
管理経費支出	474,689	453,142	21,547
借入金等利息支出	6,638	11,944	△ 5,306
借入金等返済支出	412,500	462,490	△ 49,990
施設関係支出	153,500	293,651	△ 140,151
設備関係支出	174,402	170,303	4,099
資産運用支出	4,359,816	4,451,631	△ 91,815
その他の支出	35,000	433,984	△ 398,984
[予備費]	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△ 35,000	△ 46,418	11,418
翌年度繰越支払資金	2,625,129	4,866,846	△ 2,241,717
支出の部合計	14,891,477	17,408,340	△ 2,516,863

事業活動収支予算書 平成31年4月1日から平成32年3月31日まで (単位：千円)

科目		31年度予算	30年度予算	増減 (△)	
教育活動収支	収入の部 事業活動	学生生徒等納付金	7,115,059	7,050,863	64,196
		手数料	307,548	307,561	△ 13
		寄付金	49,100	37,235	11,865
		経常費等補助金	532,040	458,540	73,500
		付随事業収入	69,809	61,654	8,155
		雑収入	174,745	101,819	72,926
		教育活動収入計	8,248,301	8,017,672	230,629
	支出の部 事業活動	人件費	4,290,447	4,135,728	154,719
		教育研究経費	3,140,137	3,036,050	104,087
		管理経費	491,203	470,564	20,639
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	7,921,787	7,642,342	279,445
教育活動収支差額		326,514	375,330	△ 48,816	
教育活動外収支	収入の部 事業活動	受取利息・配当金	252,000	252,000	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	252,000	252,000	0
	支出の部 事業活動	借入金等利息	6,638	11,944	△ 5,306
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	6,638	11,944	△ 5,306
	教育活動外収支差額		245,362	240,056	5,306
経常収支差額		571,876	615,386	△ 43,510	
特別収支	収入の部 事業活動	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	205,656	258,093	△ 52,437
		特別収入計	205,656	258,093	△ 52,437
	支出の部 事業活動	資産処分差額	2,000	2,000	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	2,000	2,000	0
	特別収支差額		203,656	256,093	△ 52,437
[予備費]		10,000	10,000	0	
基本金組入前当年度収支差額		765,532	861,479	△ 95,947	
基本金組入額合計		△ 837,603	△ 1,157,527	319,924	
当年度収支差額		△ 72,071	△ 296,048	223,977	
前年度繰越収支差額		△ 1,999,963	△ 1,703,915	△ 296,048	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 2,072,034	△ 1,999,963	△ 72,071	
(参考)					
事業活動収入計		8,705,957	8,527,765	178,192	
事業活動支出計		7,940,425	7,666,286	274,139	

東京経済大学 創立一二〇周年 記念事業募金



創立一二〇周年記念事業募金につきましては、学内外の皆様からのご支援ご協力により、二〇一九年五月十五日までに、二五九〇件、三億八四六八万六五八円のご寄付を頂戴いたしました。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。二〇一八年十一月一日から二〇一九年五月十五日までに受け付けました寄付者のご芳名を掲載させていただきます。〔一〕内は本事業開始からの累計額です。

引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

二〇一九年七月 学校法人 東京経済大学 理事長 後藤 鉄四郎

東京経済大学 学長 岡本 英男

創立120周年記念事業募金応募状況

2017年2月1日～2019年5月15日申込分

	件数	金額 (円)
一般法人/卒業生法人	91	153,218,000
卒業生	2,138	160,447,273
卒業生団体	82	7,537,795
在学生父母	130	3,344,000
一般	23	1,281,500
法人役員/教職員	126	58,858,000
合計	2,590	384,686,568

目標金額 20億円

(注)
ご寄付を追加された場合は、累計額により再度掲載いたします。
今後とも、皆様のお力添えをいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

校友センター 創立120周年記念事業募金室
TEL 042-328-6100
FAX 042-328-8029
Email: bokin@stku.ac.jp

個人情報のためウェブ掲載は控えさせていただきます。

個人情報のためウェブ掲載は控えさせていただきます。

個人情報のためウェブ掲載は控えさせていただきます。

120周年記念スポーツ・文化振興募金

個人情報のためウェブ掲載は控えさせていただきます。

東京経済大学教育振興資金寄付御芳名

「東京経済大学教育振興資金」の募集にあたり、保護者の皆様より多くのご協力をいただきました。ここに寄付を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。ご厚志は、教育の充実や奨学金制度の拡充などのために有効に活用させていただきます。今後とも、本学発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一九年七月 学校法人 東京経済大学 理事長 後藤 鏝四郎
東京経済大学 学長 岡本 英男

個人情報のためウェブ掲載は控えさせていただきます。

東京経済大学に御寄付いただいた方々の御芳名

皆様より多くの御寄付をいただきました。ここに御寄付を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。御厚志は、東京経済大学の教育および学生支援のより一層の充実のために有効に活用させていただきます。今後とも、本学発展のために御支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一九年七月 学校法人 東京経済大学 理事長 後藤 鏝四郎
東京経済大学 学長 岡本 英男

個人情報のためウェブ掲載は控えさせていただきます。

第24回 ホームカミングデー 2019 葵友会秋季懇親会

2019年
11月2日
(土)

東京経済大学 国分寺キャンパス
100周年記念館

15:00～ (受付開始14:30)

平成**11**年、平成**21**年 ご卒業の皆様へ
(1999) (2009)

卒業後10年、20年を記念してホームカミングデーにて専用テーブルをご用意してお待ちしております。
記念品もご用意しております。同期のみなさまお誘いあわせの上、ご参加ください。

東京経済大学全卒業生対象

参加費
無料

[申込方法]

申込用紙(書式自由)に以下を記入または入力してください。

①参加人数 ②参加者全員の会員番号 ③氏名(ふりがな) ④連絡先(住所・携帯番号)
※FAX送信原紙・郵送原紙(コピーを郵送)が記念品引換券になります。当日お持ちください。

メール送信先 tokelkiyukai@s.tku.ac.jp (下のQRコードからでもできます)

件名:「東京経済大学・葵友会イベント申込(ホームカミングデー)」

記念品引換券についての案内をメールします。

FAX

042-328-8029

「ホームカミングデー申込書」と記入してください

郵送

記入済み申込用紙のコピーを
下記住所に郵送してください。



● ホームカミングデーに関するお問い合わせ・送付先住所 ●

〒185-8502 国分寺市南町1-7-34

東京経済大学校友センター ホームカミングデー(秋季懇親会) 申込係

TEL: 042-328-6100 (平日 9:00~17:00)

申込締切: 2019年10月18日(金)

思い出の 卒業論文 をお手元に

卒業時に研究論文を提出された方で、1996年以前卒業の方へ、論文を返却しています。

図書館Webサイトの卒業生向けページからお申込みください(随時受付)

www.tku.ac.jp/library/use-outside/graduate/

ホームカミングデーご来校時に受取をご希望の方は、10月25日までに申し込みください。

問い合わせ先

東京経済大学図書館・卒論返却係 TEL. 042-328-7764 Eメール library@s.tku.ac.jp